

「共助型福祉」をテーマに活動する団体とのワークショップ
平成23年12月20日(火)午前9時30分～11時30分

見出し	良い点/改善点	内容
マニュアル	良い点	マニュアルをつくるのがすばらしい
		P26の「お互いが対等関係であること」がとても大切
	改善点	行政から「これが協働できる」など具体的な呼びかけを入れる(担当職員の顔写真入り)
		マニュアルとは別に、行政各課が「今年度の協働事業として力を入れたいこと」を市民になげかける
		これからの課題(重点課題)と行政の協働でやりたいことをのせる
		行政からの『お願い』ではなく、『一緒にやりませんか』というなげかけをする
		市民が『やらされている』のではなく、市民に『やりたい』と思ってもらえる工夫をする
		実際の活動団体の記載がない。(活動経過、実績、連絡先等)
		事例を多く載せて、気軽に活動できると思わせる(活動について、団体の立ち上げ等)
		相談窓口をわかりやすく掲載する(「ココに相談」と要所要所に書く等)
		市民の協働に対する一言や、協働のここが良いという意見をのせる
		マニュアルが、協働ありきの押しつけがましいイメージがある。
		自分が何をしたいかわからない人も多いので、かたちが見えるものをのせる
協働・参画	良い点	市民団体だけでは難しいことも、市に相談することで先に進めることもある
		行政が間に入ったり、情報を発信することで、安心感をもってもらえる
		配食講座開催にあたり、保健所や健康推進課の保健士や栄養士に講師を依頼したが、こころよく引き受けてもらっている
	改善点	会議等で配食団体の代表は顔をあわせていたが、シンポジウムを通してはじめて団体同士が協働できた実感
		キャッチコピーで参加を促す
		シルバー人材センター以外にも高齢者が社会参加できる機会をつくる
	その他	退職後の世代をとりこむしかけを、行政からおこなう
		同じ目的をもった団体同士の横のつながりをつくるのが大切
		協働するとき、自然に役割分担をすとうまくいきやすい
		言い出した人(団体・行政)が責任を持っておこなうのが役割分担の原則
		行政も市民も互いの壁をとりぞくことが必要
		行政ができないところを市民が補っている
		自分たちのやること、やりたいことをそれぞれの団体が責任をもって行うことが大切
要望をだすばかりではなく、行政と一緒にやろうという心構えが大切		
行政がさまざまな団体の活動を知る(百聞は一見にしかず)		
講座を開いて、集まった方々に声をかけて、人を集めている		

「共助型福祉」をテーマに活動する団体とのワークショップ
平成23年12月20日(火)午前9時30分～11時30分

見出し	良い点/改善点	内容
配食について	現状	ボランティアの配食を望んでいる方は、食生活には困っているが、重介護の方ばかりではない(配偶者が他界し、自分でつくれる等)
		高齢者でも、お米を炊く等自分できることは自分でしてもらうことも大切(自立支援)
		老々介護の利用も多い
		高齢者は自分ではなかなか外に食べに行けないので、おいしいものをつくることを心がけている
		お弁当代だけで人件費はとっていない
		配食活動拠点の近くの高齢者への配食は充実しているが、拠点から遠いところは不足気味
		配食講座をきっかけに活動する人が増えた
		配食活動団体の立ち上げマニュアルを作成している
	課題	希望者が多くて断っている状況
		利用者の入れ替わりが激しく、データ管理が困難
		配食活動のメンバーが足りない
		配食活動がまだまだ知られていない
		担い手が高齢の方なので、後継者問題がいつも話題になる
		業者の配食は人件費がかかるので高い
		業者ではないので、糖尿病等の特別な食事の用意はできない
		利用者への個別対応が難しい(間違えたら怒られる)
		調理する場所(公民館)を使用するのにお金がかかる
		担い手の想い
	作る側も笑顔になり、担い手にとっての居場所にもなる	
	人の役に立っているという思いが、つづける秘訣	
	週に1回でも仲間で集まり、食事をつくるのが楽しい	